

# 環境白書の刊行にあたって

2023（令和5）年7月、国連のグテーレス事務総長は世界平均気温が観測史上最高記録を大幅に更新したことで「地球沸騰化」という表現を使用し、各国に対し地球温暖化の進行による影響が危機的な状況であることに警鐘を鳴らしました。県内でも2023（令和5）年の最高気温35℃以上の猛暑日日数が、国内歴代最多記録を更新する46日に達した地点がありました。

近年、日本において、真夏日・猛暑日・豪雨日数の増加、農作物の生育障害、植生や野生生物の分布の変化など地球温暖化に起因する気候変動の影響が顕在化し、今後、更に深刻化するおそれがあります。

気候変動の要因とされる地球温暖化対策は、喫緊の課題となっています。

群馬県は、2019（令和元）年12月に宣言した「ぐんま5つのゼロ」を実現するため、2022（令和4）年3月に「2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』実現条例」を制定し、全庁体制での取組を進めています。このうち、「温室効果ガス排出量ゼロ」については、豊富な水や森林など群馬県の再生可能エネルギー資源をフル活用していきます。

企業や家庭の脱炭素化とレジリエンス強化に資する取組の後押しとして、群馬県の高い太陽光発電ポテンシャルを生かした太陽光発電設備・蓄電池を導入するための支援や、家庭の電気（エアコン）消費量を減らすため、公共施設や商業施設、自然の多い場所に集まって涼んだり、家族が一つの部屋で涼むことを推奨する「ぐんまクールシェア」を実施するなど、オール群馬での取組を進めながら、どなたでもできる地球温暖化対策も広めています。

県民の皆様の力を結集すれば、地球規模での気候変動に立ち向かっていくことは夢ではないと私は考えます。

この「環境白書」は、群馬県の環境全般の現状を明らかにし、多岐にわたる環境問題の解決に向けた取組の実績及び2024（令和6）年度に講じる施策についてまとめたものです。県民の皆様が本書を通じて、群馬県の環境の現状や将来に関心を持ち、持続可能な自立分散型社会の実現に向けた行動を始めるきっかけにいただければ幸いです。



2024年9月

群馬県知事

山本 一太